

発刊にあたって

全国にも例を見ない自然環境保全関連の行政、研究、普及啓発部門が一体となった「神奈川県自然環境保全センター」が平成12年度に設立されて、5年が経過しました。その間、多くの関係者のご協力、ご支援を受け、職員も一丸となって努力をした結果、当初の寄り合い所帯的組織から、課題解決型の総合的組織に成長してきたと考えております。たとえば、森林環境にかかわる多くの行政課題に対して、企画管理部が課題を分析し、県有林部はフィールドを提供し、研究部等が調査研究することにより、解決の糸口を見出し、自然保護公園部や県有林部がその成果を現場にフィードバックするという課題解決の一つの仕組みが出来上がりつつあります。

また、平成16年度から、丹沢大山総合調査が始まり、調査の企画立案の段階から、各種調査や情報の収集・整理・分析、取りまとめ、さらにはセミナー開催にいたるまで当センターは、丹沢大山総合調査実行委員会の厚本事務局として参加しているところです。

ところで、「自然環境保全センター報告」の発刊のねらいは、多くの方々に当センターの業務内容を分かりやすく紹介し、業務等の参考にしていただくとともに、広くご意見を頂き、業務の評価や見直しを行うことにあります。

自然環境保全センター報告第2号では、業務に関係する内容として「当センターに保護された傷病鳥獣の記録」と「ニホンジカ保護管理に関する調査報告」について、研究に関係するものとしては、丹沢大山関係として「丹沢山地の主要山頂における土壌化学性の変化」等数編、その他森林バイオマス関係および情報処理と情報管理について紹介しております。

さらには、生命の星・地球博物館館長であり丹沢大山総合調査の調査団長でもあります青木先生からは「丹沢生物相の異変」、日本大学教授であり丹沢大山総合調査の調査企画部会長でもあります木平先生からは「県民参加による環境保全計画のつくり方」の特別寄稿をいただきました。

当センターとしては、今後とも森林環境の保全にかかわる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や実績等につきましては、本報告書やホームページなどで迅速に紹介してまいりますので、ご意見をいただくとともに、業務等の参考として活用していただければ幸いです。

平成17年3月

神奈川県自然環境保全センター所長 蓮 場 良 之